

シンポジウム 奇跡の原っぱ

「そうふけっぱら」を次世代へ



～キツネのくらすニュータウンづくりを目指して～

千葉県印西市のニュータウン開発予定地には、地元でそうふけっぱら（草深原）と呼ばれる大草原が残されています。全国で草原が姿を消す中、ここには800種類以上の生きものや千葉県ではあまり見られなくなったキツネが暮らしており、いつしか「奇跡の原っぱ」と呼ばれるようになりました。当初のニュータウン開発事業が今年度で終了することから、このまま開発を継続するのか、新しいまちづくりを目指すのか、この場所はいま瀬戸際に立たされています。キツネの原っぱとニュータウンが共生できる姿を皆で考えます。

◆プログラム

第1部 講演：奇跡の原っぱ「そうふけっぱら」の価値

●「奇跡の原っぱ」はなぜ奇跡か？

高川晋一（日本自然保護協会）

●「いのち輝く草原を未来へ～生態系サービスを通じた人と草原の関わりの再構築～」

高橋佳孝（近畿中国四国農業研究センター、全国草原再生ネットワーク代表、阿蘇草原再生協議会会長）

●「過去を知り、未来へ繋ぐ～保全生態学からみた千葉県北部の草原～」

西廣淳（東邦大学准教授、日本生態学会生態系管理専門委員会幹事）

●「市民による保全の取り組み～亀成川から水源地へ、そして奇跡の原っぱ～」

小山尚子（亀成川を愛する会）

第2部 パネルディスカッション「みんなが描く キツネのすむニュータウンの未来像」

2013年 **11月24日(日)**

13:00～17:00 (受付 12:30～)

東京大学弥生講堂一条ホール

東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内
東京メトロ東大前駅（南北線）徒歩1分
根津駅（千代田線）徒歩8分

事前申し込み不要。定員300名

参加費 1000円 (※全額をそうふけっぱらの自然保護運動に充てさせていただきます)

主催：日本自然保護協会

共催：亀成川を愛する会

協力：WWFジャパン、全国草原再生ネットワーク

後援：日本野鳥の会、生物多様性ジャパン

◆問い合わせは

日本自然保護協会
NACS-J THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN

TEL : 03-3553-4104 FAX : 03-3553-0139

メール : shimousa@nacsj.or.jp

〒104-0033 東京都中央区新川1-16-10 ミトヨビル2F